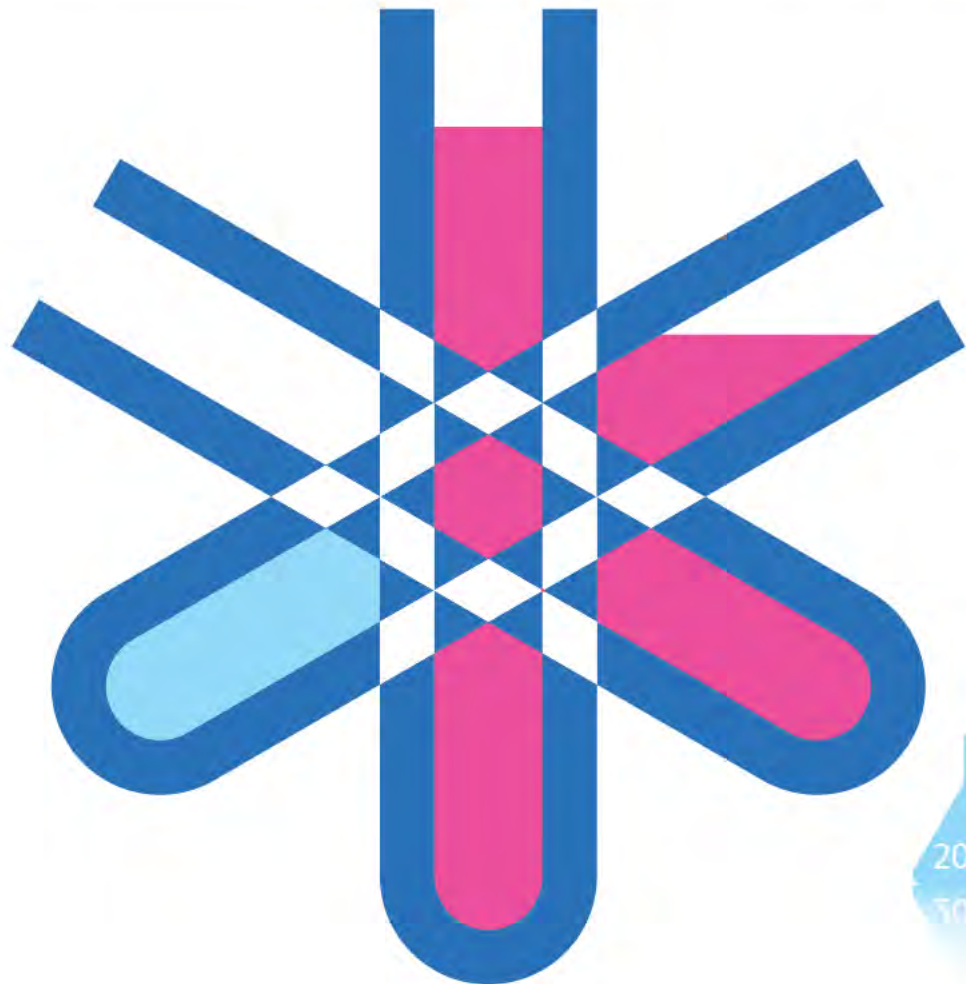


# 検査情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成28年1月号 目次

## 【トピックス】

横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 ―平成27年6～10月― .....	1
残留農薬検査(平成27年度 その3) .....	4

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 12月 .....	7
--------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	11
---------------------	----

# 横浜市内の蚊成虫生息状況調査結果 －平成27年6～10月－

医動物担当では、健康福祉局蚊媒介感染症ウイルスサーベイランス事業の一環として主に市内公園等において蚊成虫生息状況調査を行っています。蚊媒介感染症は、デング熱、ウエストナイル熱、チクングニア熱、日本脳炎などがあり、それぞれ主要媒介蚊が異なります。またデング熱は、平成26年8月に、約70年ぶりとなる国内発生がありました。そのため、感染症発生時対策として、平常時より地域特有の蚊成虫生息状況を把握しておくことは必要です。

平成27年は電池式ライトトラップ(CDC型:ドライアイス併用、写真1)を用いた蚊成虫捕獲調査を市内25か所(各10回)で行いました。調査場所は平成26年より6か所増加しています(図1・表1)。ライトトラップの設置回収は、各区福祉保健センター、神奈川県ペストコントロール協会、衛生研究所が行いました。また、山下公園(中区)の6地点において、ヤブカ属の捕獲を目的として捕虫網を用いた調査(8分間スウィーピング法、写真2)を10回行いました。

捕獲された蚊は調査場所ごとに種類を同定し、雌成虫については、ウイルス検査担当に供出しました。蚊媒介感染症ウイルス検査結果については、衛生研究所HPに掲載しています。今回は、市内における蚊成虫生息状況調査結果について報告します。



写真1 CDC型ライトトラップ



写真2 スウィーピング法



図1 蚊成虫捕獲調査地点

表1 蚊成虫捕獲調査地点

区	調査地点	区	調査地点	区	調査地点
鶴見	大黒中央公園(A)	中	シンボルタワー(J)	緑	北八朔公園(S)
	馬場花木園(B)	南	蒔田の森公園(K)	青葉	桜台公園(T)
神奈川	三ツ沢公園(C)	港南	久良岐公園(L)	都筑	都筑中央公園(U)
西	掃部山公園(D)	保土ヶ谷	陣ヶ下溪谷公園(M)	戸塚	舞岡公園(V)
	臨港パーク(E)		児童遊園地(N)	栄	本郷ふじやま公園(W)
中	山下公園(F)	旭	こども自然公園(O)	泉	泉中央公園(X)
	横浜公園(G)	磯子	岡村公園(P)	瀬谷	二ツ橋南公園(Y)
	港の見える丘公園(H)	金沢	海の公園(Q)		
	根岸森林公園(I)	港北	大倉山公園(R)		

〈ライトトラップ法により捕獲された蚊の種類と個体数〉

ライトトラップ法により捕獲された蚊の種類と個体数を表2に示しました。

捕獲された蚊成虫の雌雄合計は、7属12種9,050個体でした。最も多く捕獲された種類は、ヒトスジシマカ6,964個体(77.0%)でした。次いで、アカイエカ群が1,345個体(14.9%)、キンバラナガハシカが237個体(2.6%)、ヤマトヤブカが235個体(2.6%)捕獲されました。

表2 蚊の種類と個体数(ライトトラップ法:25か所×10回)

属	種	個体数			
		雌	雄	合計	(%)
イエカ属	アカイエカ群*1	1,303	42	1,345	(14.9)
	コガタアカイエカ	49	3	52	(0.6)
	カラツイエカ	25	6	31	(0.3)
	トラフカクイカ	3	4	7	(0.08)
ヤブカ属	クシヒゲカ亜属	8	0	8	(0.09)
	ヒトスジシマカ	6,072	892	6,964	(77.0)
	ヤマトヤブカ	224	11	235	(2.6)
クロヤブカ属	オオクロヤブカ	17	0	17	(0.2)
ナガハシカ属	キンバラナガハシカ	201	36	237	(2.6)
ナガスネカ属	ハマダラナガスネカ	25	4	29	(0.3)
チビカ属	フタクロホシチビカ	4	1	5	(0.06)
ハマダラカ属	シナハマダラカ	1	0	1	(0.01)
	その他*2	109	10	119	(1.3)
合計		8,041	1,009	9,050	



ヒトスジシマカ 雌

\*1: アカイエカ群には、アカイエカ、チカイエカ、ネツタイエカの3亜種が含まれる。3亜種は実体顕微鏡下での外部形態による同定が容易ではないため、多くの調査で、アカイエカ群として扱われている。

\*2: 破損の激しいもの

〈調査地点別の蚊捕獲数:ライトトラップ法〉

調査地点別の蚊捕獲数を図2に示しました。調査期間中最も多く捕獲されたのは、掃部山公園(西区)で2,214個体でした。次いで、馬場花木園(鶴見区)が778個体、都筑中央公園(都筑区)が544個体、北八朔公園(緑区)が541個体でした。また横浜港に近い調査場所である、臨港パーク(西区)、中区の山下公園・横浜公園・シンボルタワー

はアカイエカ群の捕獲数が多く、その他の調査地点はヒトスジシマカが多く捕獲されました。

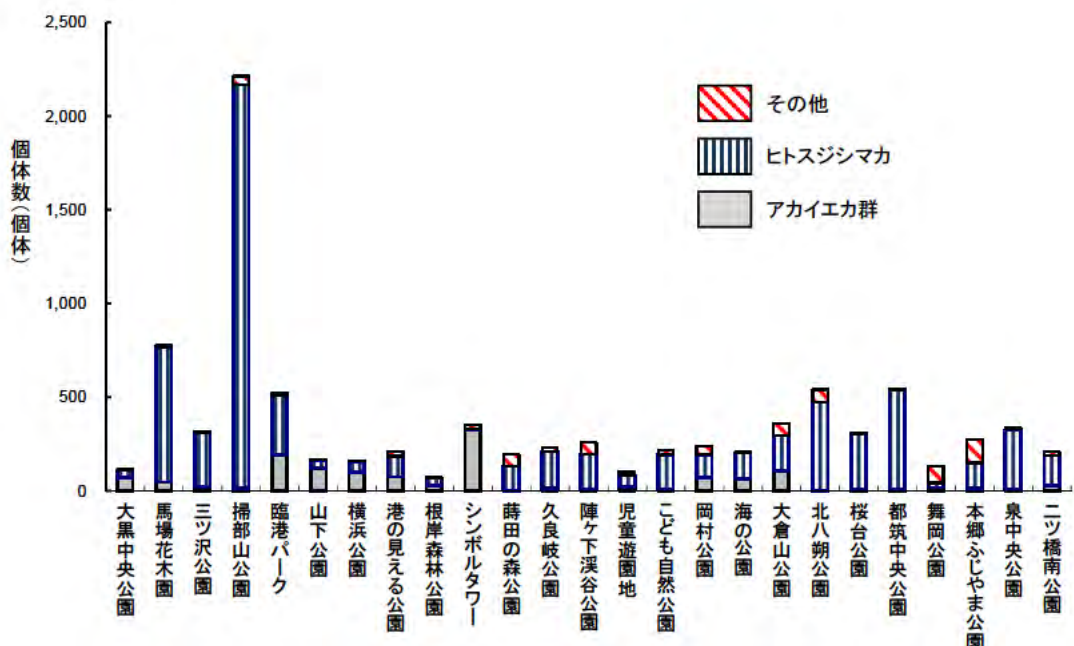


図2 調査地点別の蚊捕獲数

〈スウィーピング法により捕獲されたヒトスジシマカ個体数：山下公園〉

山下公園内の6地点において、8分間スウィーピング法による蚊成虫調査を10回行いました。調査の結果、ヒトスジシマカの雌成虫は120個体、雄成虫は65個体、合計185個体捕獲されました。

〈スウィーピング法によるヒトスジシマカの季節消長：山下公園〉

スウィーピング法により捕獲されたヒトスジシマカ成虫の季節消長(6地点の合計)を図3に示しました。ヒトスジシマカは調査期間を通じて捕獲がみられ、8/27に59個体と最も多く捕獲されました。

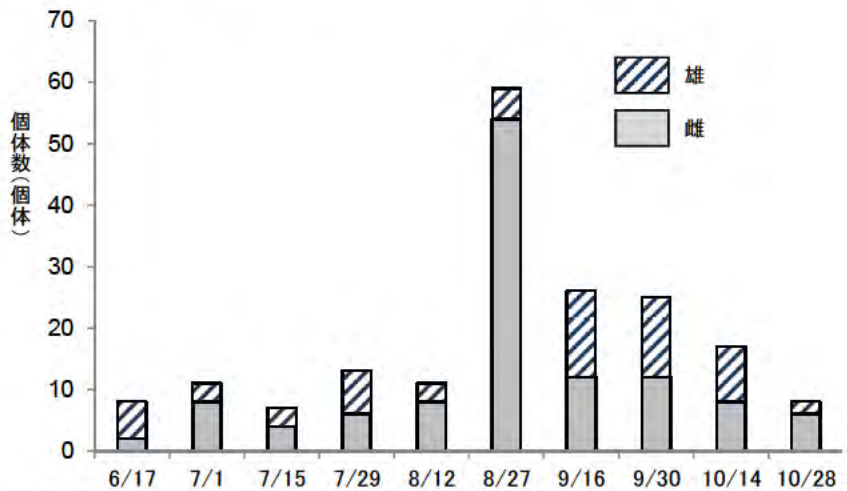


図3 山下公園のヒトスジシマカ季節消長(スウィーピング法:6か所合計)

マメ知識 … ライトトラップ法とスウィーピング法は何が違うの???

ライトトラップ法は、機械を夕方から翌朝まで運転し、蚊を捕獲する方法です。長時間かかりますが、多くの種類の蚊が捕獲できるので、その地域の蚊の種類相を調査するために用いられる方法です。また、スウィーピング法は、あらかじめ決めておいた場所で、調査者が捕虫網を持ち一定時間に飛来する蚊成虫を捕獲する方法です。茂みで待ち伏せし、昼間に活動するヒトスジシマカなどのヤブカ属の仲間を捕獲する方法として有効です。どんな目的で調査をするかによって方法を選択する必要があります。

	ライトトラップ法	スウィーピング法
時間	長時間:夕方~翌朝まで	短時間:8分間程度(1か所)
採れる蚊	ヤブカ属だけでなく、イエカ属など多種類が採れる	ヤブカ属が中心
特徴	定期的なモニタリングに有効	たくさんの場所を短時間で調査できる

蚊に刺されないように気を付けましょうね!



デング熱発生時の調査に有効だよ!!

# 残留農薬検査(平成27年度 その3)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成27年10月から11月までに食品専門監視班及び各区福祉保健センターより搬入された農産物等の検査結果を報告します。

## 1 市内産農産物

10月に搬入されたさつまいも、さといも及びじゃがいも(各2検体)、こまつな、ししとう、なす及びピーマン(各1検体)、11月に搬入されたキャベツ及びにんじん(各3検体)、さつまいも、さといも、だいこんの根及びだいこんの葉(各2検体)、かき、かぶの根、かぶの葉、こまつな、チンゲンサイ、トマト、なす、ブロッコリー及びほうれんそう(各1検体)の計33検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、こまつな、さといも、ししとう、だいこんの葉、ピーマン及びほうれんそう各1検体から計4種類6項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

## 2 国内産農産物

11月に搬入されたキャベツ及びだいこんの根(各2検体)、はくさい、パセリ及びレタス(各1検体)の計7検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、はくさい及びパセリ各1検体から、計3種類3項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

## 3 輸入農産物

10月に搬入されたさやいんげん及びブロッコリー(各1検体)の計2検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、農薬が検出されたものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、6ページからの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H27年10月～H27年11月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
かき	横浜市	1	0			
かぶの根	横浜市	1	0			
かぶの葉	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	3	0			
こまつな	横浜市	2	1	アゾキシストロビン	0.50	15
さつまいも	横浜市	4	0			
さといも	横浜市	4	1	ダイアジノン	0.02	0.1
ししとう	横浜市	1	1	アセタミプリド	0.02	2
じゃがいも	横浜市	2	0			
だいこんの根	横浜市	2	0			
だいこんの葉	横浜市	2	1	ペルメリン	0.08	3.0
チンゲンサイ	横浜市	1	0			
トマト	横浜市	1	0			
なす	横浜市	2	0			
にんじん	横浜市	3	0			
ピーマン	横浜市	1	1	アセタミプリド	0.03	1
ブロッコリー	横浜市	1	0			
ほうれんそう	横浜市	1	1	ペルメリン	0.12	2.0

表1 残留農薬検査結果(続き)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>国内産農産物</b>						
キャベツ	茨城県	1	0			
	神奈川県	1	0			
だいこんの根	千葉県	1	0			
	神奈川県	1	0			
はくさい	長野県	1	1	フェンバレレート	0.23	3.0
パセリ	千葉県	1	1	アセタミプリド	0.39	3
				ジフェノコナゾール	0.63	10
レタス	茨城県	1	0			
<b>輸入農産物</b>						
さやいんげん	タイ	1	0			
ブロッコリー	エクアドル	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	検出				農薬名	検出 限界 (ppm)	検出			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	-	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	ジウロン	0.01	○	○	○	-
アクリナリン	0.01	○	○	○	○	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○
アジンホスメチル	0.01	-	-	-	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○	○
アズキシストロビン	0.01	○	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-	○
アニロホス	0.01	○	○	○	-	シフルトリン	0.01	-	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	-	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	シペルメトリン	0.01	-	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	ジメチリモール	0.01	-	-	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	-	ジメトモルフ	0.01	○	○	○	-
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	スルプロホス	0.01	○	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	-	チアメキサム	0.01	○	-	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	-	○	-	-	テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	-	○	-	○	テトラジホン	0.01	○	○	○	-
オキサミル	0.01	○	○	○	○	テブチウロン	0.01	○	○	○	-
オキシカルボキシシン	0.01	○	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○
オリザリン	0.01	-	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○
カフェンストロール	0.01	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	○	○	○	-
カルバリル	0.01	○	○	○	○	トリフルムロン	0.01	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	-	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	ノバルロン	0.01	-	○	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	-	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-	-
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	ピラゾリネート	0.01	-	-	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○
クロルフェンソン	0.01	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	-	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D	農薬名	検出限界 (ppm)	A	B	C	D
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	-	○	○	○
フェリムゾン	0.01	○	-	-	-	ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-	-
フェンアミドン	0.01	○	○	○	-	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-	-
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
フェントラザミド	0.01	○	○	○	-	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	-	○	○	-	ベントキサザン	0.01	○	-	-	-
フェンピロキシメート	0.01	-	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-	○
フェンプロバトリン	0.01	-	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	-
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
ブタミホス	0.01	○	○	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○	○
フラメビル	0.01	○	○	○	-	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
フルシトリネート	0.01	-	○	○	-	メピンホス	0.01	○	○	○	○
フルバリネート	0.01	-	○	○	○	モノリニユロン	0.01	○	○	○	-
フルフェナセット	0.01	○	○	○	-	ラクトフェン	0.01	○	○	-	○
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	リニユロン	0.01	○	○	○	○
フルリドン	0.01	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.002	○	○	○	-
プロシミドン	0.01	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	-	○	○	○
プロチオホス	0.01	○	○	○	○						

\*1 A:かぶの葉、こまつな、さやいんげん、ししとう、だいこんの葉、チンゲンサイ、トマト、にんじん、パセリ、ピーマン、ブロッコリー及びほうれんそう B:かぶの根、キャベツ、だいこんの根、なす、はくさい及びレタス C:さつまいも、さといも及びじゃがいも D:かき

\*2 ○:実施、-:実施せず

\*3 DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

### 【農薬解説】

#### ○アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。今年度実施した検査において、こまつな(市内産)及びトマト(市内産・国内産)からも検出されました。

#### ○アゾキシストロビン

『アミスター』などの商品名で販売されている殺菌剤で、多くの菌類に対し強い抗菌効果があります。今年度実施した検査において、きゅうり、こまつな、トマト及びほうれんそう(市内産)からも検出されました。

#### ○ジフェノコナゾール

『スコア』などの商品名で販売されている殺菌剤で、果樹、野菜、茶などの主要病害に予防及び治療効果があります。

#### ○ダイアジノン

『ダイアジノン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、土壌害虫や、葉に喰入した害虫など、広範囲の害虫に効果があります。即効性があり、残効期間は短いとされています。

#### ○フェンバレレート

『スミサイジン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。広範囲の害虫に効果があり、従来の殺虫剤が効きにくい害虫に対しても効果があります。

#### ○ペルメトリン

『アディオン』などの商品名で販売されている殺虫剤です。果樹、野菜、茶などの主要害虫の防除に使用されます。今年度実施した検査において、トマト及びぶどう(市内産)からも検出されました。

### ※参考文献

・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版



## 横浜市感染症発生動向調査報告 12月

### 《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しており、保育園、小学校や高齢者施設での集団感染の報告もありますので注意が必要です。今シーズンも市内からノロウイルスGⅡ.17型が検出されています。
- 咽頭結膜熱、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎などの報告が多くなっています。

### 全数把握の対象

#### 【12月期に報告された全数把握疾患】

腸管出血性大腸菌感染症	3件	急性脳炎	3件
パラチフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
レジオネラ症	4件	梅毒	5件
アメーバ赤痢	3件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件		

- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:3件の報告があり、うち1件は同一家族内での感染事例でした。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- 2 **パラチフス**:1件の報告があり、海外(インドネシアまたはフィリピン)での経口感染が推定されています。
- 3 **A型肝炎**:1件の報告があり、海外(フィリピン(セブ島))での経口感染が推定されています。
- 4 **デング熱**:1件の報告があり、海外(スリランカ(コロンボ))での感染が推定されています。
- 5 **レジオネラ症**:肺炎型4件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明でした。
- 6 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症3件の報告があり、1件は国内での同性間性的接触による感染、もう1件は国内での異性間性的接触(性交及び経口)による感染、残るもう1件は東南アジアでの経口感染でした。
- 7 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:4件の報告がありました。
- 8 **急性脳炎**:3件の報告がありました。1件は70歳代で、検査キットにてインフルエンザA型が検出されています。他の2件(新生児及び幼児)は病原体不明です。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:無症状病原体保有者1件(国内での同性間及び異性間性的接触による感染)の報告がありました。
- 10 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:1件の60歳代の報告がありました。
- 11 **侵襲性肺炎球菌感染症**:幼児1件、成人6件の報告がありました。幼児例では予防接種歴が4回(7価)ありましたが、成人例では予防接種歴が確認できませんでした。
- 12 **梅毒**:5件の報告(早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候期3件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触4件、同性間性的接触1件でした。
- 13 **播種性クリプトコックス症**:1件の報告があり、感染原因として慢性腎不全による免疫不全が推定されています。

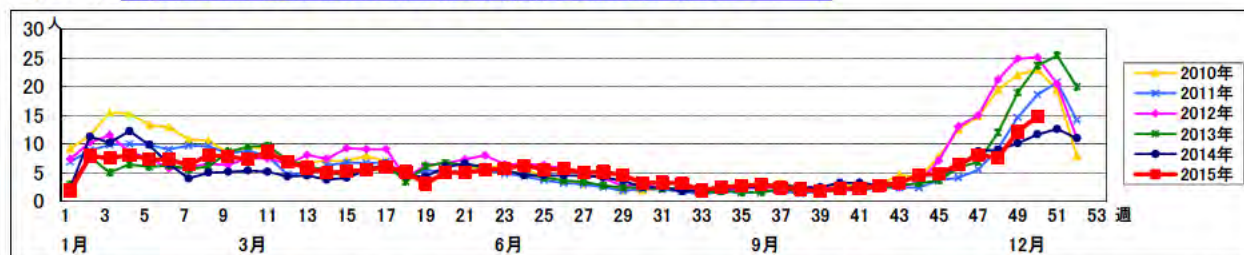
### 定点把握の対象

- 1 **感染性胃腸炎**:第50週は市全体で定点あたり14.85と増加傾向です。区別では都筑区35.50、鶴見区22.14、中区20.50で警報発令基準値(定点あたり20.00)を上回っており注意が必要です。今シーズンは、これまでノロウイルスの主流のタイプであったGⅡ.4にかわり、GⅡ.17のノロウイルスの流行が危惧されていることから、[厚生労働省](#)が注意喚起しています。市内でも、昨シーズンは2015年1月頃から、これまで多く検出されていたGⅡ.4にかわり、GⅡ.17が検出されるようになりました。今シーズンもまだ全体の報告数は少ないものの、GⅡ.17が検出されています。GⅡ.17はノロウイルス迅

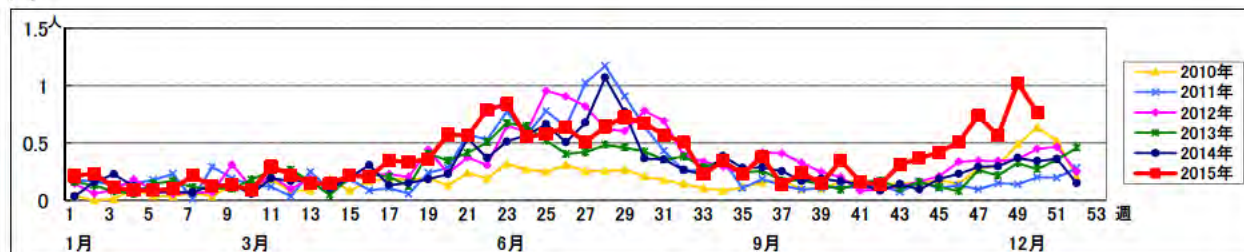
平成27年 週一月日対応表	
第48週	11月23日～11月29日
第49週	11月30日～12月 6日
第50週	12月 7日～12月13日

速診断検査キットでの検出感度が低いことが報告されており、注意が必要です。

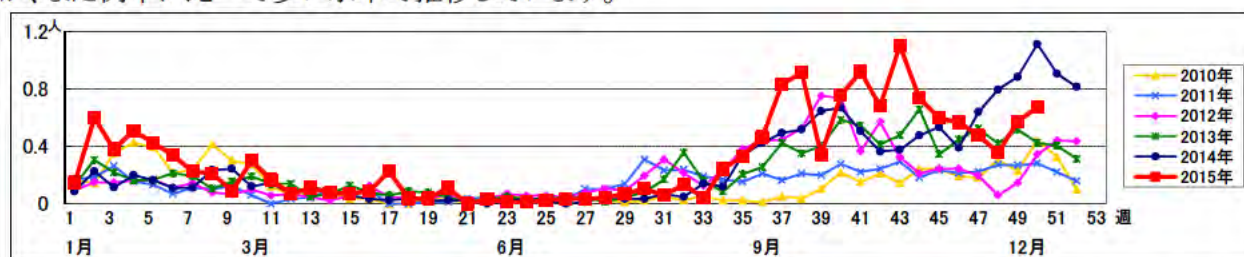
◆参考: [感染症臨時情報「感染性胃腸炎」\(横浜市感染症情報センター\)](#)



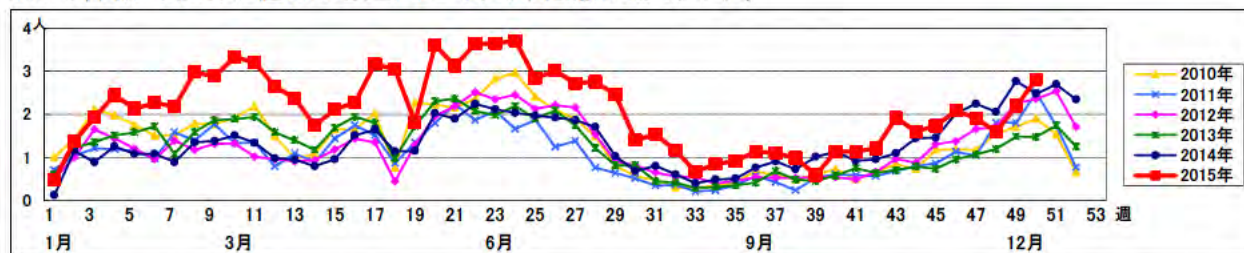
2 咽頭結膜熱: 第50週は市全体で定点あたり0.76と、この時期では2010年以降最も報告が多くなっています。



3 RSウイルス感染症: 第50週は市全体で定点あたり0.67と、今年最も多かった第43週1.10より減少しましたが、まだ例年に比べて多い水準で推移しています。



4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 第50週は市全体で定点あたり2.81と増加傾向です。区別では磯子区9.00で警報発令基準値8.00を上回っており、注意が必要です。



5 インフルエンザ: 第50週は市全体で定点あたり0.17と落ち着いています。ただ、学級閉鎖も報告されており、早めの予防接種が重要です。

6 性感染症: 11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が10件でした。性器ヘルペス感染症は男性が4件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性6件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が1件でした。

7 基幹定点週報: マイコプラズマ肺炎は第48週2.00、第49週2.00、第50週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)が第48週0.00、第49週0.33、第50週1.00と、この冬シーズンでは第45週にはじめて報告されて以来、報告が寄せられています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

8 基幹定点月報: 11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

### ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点10件、眼科定点2件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは3件でした。

1月7日現在、ウイルス分離7株と各種ウイルス遺伝子38件が検出されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(12月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱 *2	胃 腸 炎	手 足 口 病 *1	流 行 性 耳 下 腺 炎 *1	水 痘
アデノ NT*3	1	1			1				
アデノ 2型	1				4				
アデノ 4型					1				
アデノ 41型						2			
インフルエンザ B型ビクトリア系統			1						
パラインフルエンザ 1型	1		1	1					
パラインフルエンザ 2型		1							
パラインフルエンザ 3型		1	1						
RS	4	2		3					
ヒトコロナ*4	3	2	1	1					
ムンプス								2	
水痘・帯状疱疹									1
ライノ	2	1							
エコー 18型	1								
コクサッキー A6型							1		
ノロ						2			
合計	1 12	1 8	1 3	5	2 4	4	1	2	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:アデノ感染症を含む、\*3:型未同定、\*4:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎は、基幹定点から10件、その他から3件でした。腸管出血性大腸菌(O171:H2)、腸管毒素原性大腸菌(O6:H16、O148:H28)、腸管凝集性大腸菌(O111:H21)、サルモネラ(*S. Livingstone*)、カンピロバクター(*C. jejuni*)、インドネシアおよびフィリピンへの旅行者からパラチフスA菌が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から4件、基幹定点から5件、その他から32件でした。*Legionella pneumophila*の血清型は6群でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(12月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	12月			2015年1月～12月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	10	3	2	106	118
赤痢菌					2	4	
腸管出血性大腸菌				1	1	78	
腸管毒素原性大腸菌			3		4		
腸管凝集性大腸菌			1		1		
チフス菌						1	
パラチフスA菌			1		7	5	
サルモネラ			1		61	3	
カンピロバクター				1		3	
コレラ菌						1	
不検出		0	4	1	2	30	23

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	12月			2015年1月～12月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		4	5	32	53	40	509
A群溶血性レンサ球菌	T1				3	6	
	T4	1			8		
	T6				1		
	T12				2		
	T28				2	3	
	T B3264				2	1	
	型別不能	3			23	4	
B群溶血性レンサ球菌					1	2	
G群溶血性レンサ球菌						5	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			1	1		11	41
バンコマイシン耐性腸球菌						1	2
<i>Legionella pneumophila</i>				1			9
インフルエンザ菌				1			13
肺炎球菌			1	14	1	5	96
<i>Neisseria meningitidis</i>							2
黄色ブドウ球菌					2		1
結核菌				2			159
緑膿菌							53
百日咳菌						2	3
その他			3	10		19	54
不検出		0	0	3	8	2	55

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年12月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成27年12月)

平成27年12月の総アクセス数は、116,553件でした。主な内訳は、感染症情報センター73.0%、保健情報6.5%、食品衛生2.9%、検査情報月報2.1%、生活環境衛生1.8%、薬事1.7%でした。

### (2) アクセス順位 (平成27年12月)

12月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年12月 アクセス順位

は、第1位が「横浜市感染症情報センター」、第2位が「衛生研究所トップページ」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

12月の総アクセス数は、前月に比べ約5%減少しました。今月の1位は、横浜市感染症情報センターでした。これは、最近の感染性胃腸炎の流行を初めとする、冬場に発生する感染症への

関心の高さによるものと考えられます。2位は、衛生研究所トップページでした。3位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。5位は、「リシン毒素について」でした。これは、12月の報道等により、トウゴマから抽出した毒成分のリシンを混入させた事件の発生を受けて、アクセス数の増加に繋がったと考えられます。

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センター	3,946
2	衛生研究所トップページ	3,430
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,386
4	インフルエンザワクチンについて	2,920
5	リシン毒素について	2,847
6	ノロウイルスによる感染性胃腸炎について	2,733
7	EBウイルスと伝染性単核症について	2,718
8	B群レンサ球菌 (GBS) 感染症について	2,680
9	フルーツジュース(果汁)と下痢について	2,638
10	感染症発生状況	2,502

データ提供: 市民局広報課

「横浜市感染症情報センター」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年12月）

平成27年12月の問い合わせは、0件でした。

## 2 追加・更新記事（平成27年12月）

平成27年12月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表2)。

表2 平成27年12月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
12月 2日	感染症に気をつけよう(12月号)	掲載
12月 4日	ロシアのこどもの定期予防接種について	更新
12月 4日	ルクセンブルクのこどもの定期予防接種について	更新
12月 8日	ルーマニアのこどもの定期予防接種について	更新
12月10日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月11日	ラトビアのこどもの定期予防接種について	更新
12月17日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月17日	チェコ共和国のこどもの定期予防接種について	更新
12月25日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
12月25日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】